

## 調理場へ消毒もせず検査に入る

いつも利用している料理屋さんに行きました。

予約していたカウンターに座ろうとすると親方が渋い顔をして、「検査の人が急に来まして…」と私たちに話します。

カウンターの中を見ると、若い検査の人がコートも脱がず、しかも土足で料理人の神聖な調理場に入り、自分たちの手の消毒もせずに、綿棒で菌を採取しようとしています。

まるで犯罪者扱いで、見ている方が呆れました。

学校薬剤師の我々でも給食室に入るときは白衣を着て、手指の消毒は常識。用意されたスリッパに履き替え、髪の毛が落ちないように予防的処置をして入室します。

研修を受けている学校薬剤師の我々は、誰に見られても恥ずかしくない方法で検査検体を扱います。それから比べると本当にヒドイものでした。

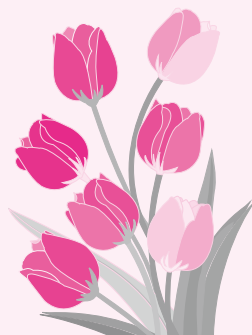
まじめな親方は、翌日から自主的に営業を停止。検査後に1週間くらいしてからようやく、「何も出ませんでした」と返事が来たそうです。

後から聞いた話では、グループで来店していた1人が、具合が悪くなって医者にかかり、医院から当該部署に連絡が入ったというのです。

たまたま体調が悪かったからとも考えず、いきなりそういう行動をとる、人のせいにするのがあまりにも多すぎるように思います。



自主的に営業を停止した料理店  
よく原因を考えてから行動する  
利用している料理屋さんには、検査の人が来ました。結果、何もなかったのですが、納得できない気持ちになります。



薬局に相談にみえる方でも、少し体調が悪いときに薬のせいにする人、自分で病気を作り決めつける人が多いことを日々感じています。

## 老舗料亭の女将の早業

旅行に行ったとき、こんなことがありました。

世界各国の要人が訪れるという老舗料亭の女将が、珍しくカウンターのお手伝いをされていました。

私の目の前で体長3mmくらいしかないゴキブリを発見。周りの人に気づかれないように女将さんに手招きして、その小さな生物を指さしてお知らせした瞬間、バチッと手でつぶしてしまったのです。着物を着ている女将さんのあまりの早業にビックリ。

周りのお客様は気づかず、親方だけは何があったのかと目を白黒していました。女将さんが何事もなかったかのように布巾でキレイに拭いて一件落着。

どこかの国のエライ方の前でもそんなことをするのかなと思しながら、私たちは平気な顔をして無事お食事を終えることができました。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

### プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「大型連休中も、規則正しい生活をしましょう」

